

岩手大を国際研究拠点に

北上空で航空 船崎氏(工学部)が講演
宇宙セミナー 副学部長

岩手大工学部の研究開発概要が示された航空宇宙産業セミナー



本県の科学技術振興
を図る産学官交流組織
INS (岩手ネットワ
ークシステム)の宇宙

航空研究会長の船崎健一岩手大工学部副学部長は29日、北上市内で開かれた航空宇宙産業セミナー(INS主催)で、同大を航空宇宙産業分野の国際的な研究開発拠点として整備していく考えを示した。

同大工学部は2009年度、実践的なものづくり研究開発に取り組む「ものづくりエンジニアリングファクトリー」を設置。13年度までの5年間、国から事業費(単年度約1億

円)を受け、学外の企業や研究機関などと連携し、ものづくり全般の研究開発、人材育成に取り組んでいる。

航空宇宙推進研究はこの一環。実験やコンピュータシミュレーションなどに関する国内有数の高精度設備を段階的に整備し、教職員4人、大学院生12人、学生6人らが航空エン

ジン関連や奥州市水沢区の国立天文台・月探査計画の技術研究開発に取り組んでいる。

船崎会長は「従来の大学の活動ではできなかった分野で地域に貢献していきたい」と強調。「(岩手大は)国内有数の研究環境があり、国際的に通じる研究開発の拠点を形成していきたい」と述べた。